

経営比較分析表（令和3年度決算）

宮城県 川崎町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	64.41	83.98	3,454

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,430	270.77	31.13
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,365	4.29	1,250.58

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

○収益の収支比率
法適化に向けた経費の発生により、前年度から悪化しています。限定的な費用が悪化の要因であることから特に問題視はしませんが、引き続きトータルコストの削減に努めていきます。

○企業債残高対事業規模比率
将来の企業債の償還をすべて一般会計繰入金で補てんする考え方により数値が計上されていません。決算においては、経営改善に伴った企業債償還に充てる一般財源の確保により、一般会計繰入金の削減を図っています。

○経費回収率
法適化に向けた経費及びストックマネジメント計画に係る経費など臨時的経費の増加に伴い、前年度から悪化しています。100%を上回る結果にはなっていますが、引き続きコスト削減に取り組んでいきます。

○汚水処理原価
「経費回収率」同様に臨時的経費の増加に伴い原価が増加したものです。引き続きコスト削減を図っていきます。

○施設利用率
類似団体と比較し、低い施設利用率となっています。総合的なスペックの見直しも含め、施設利用率向上を図っていきたくと考えています。

○水洗化率
面的な整備は完了していることから、引き続き処理区域内の水洗化率向上に努めます。

2. 老朽化の状況について

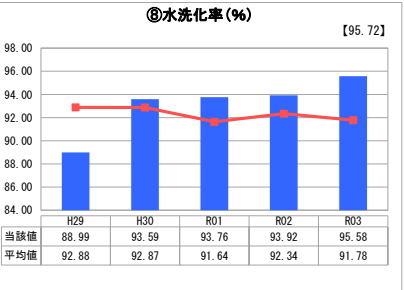
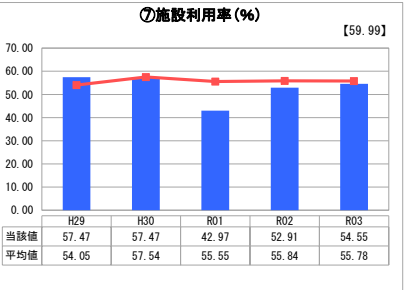
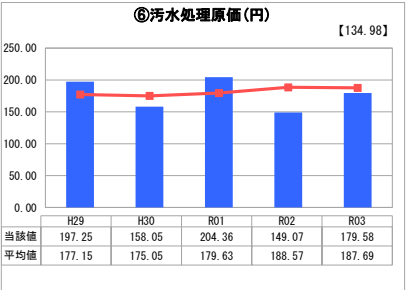
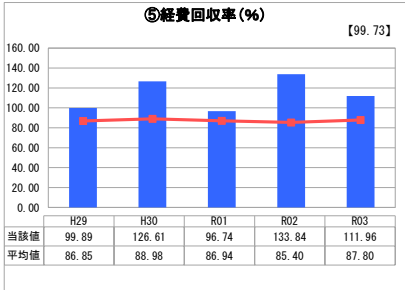
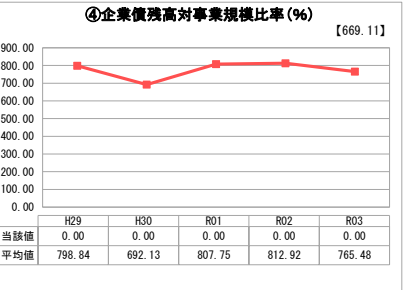
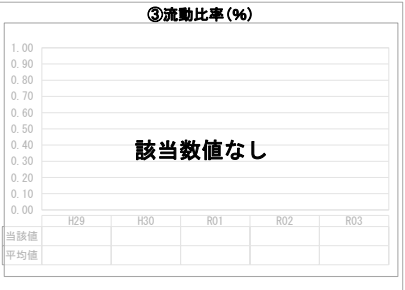
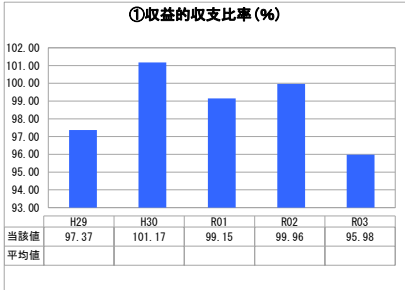
昭和60年の供用開始以降、定期的な点検や修繕を実施しておりますが、ほとんどの設備が耐用年数を大幅に過ぎていることから、令和4年度に見直しする「川崎町ストックマネジメント計画」により釜房環境浄化センター及び青根浄化センター、中継ポンプ場の設備を計画的に更新・長寿命化していきます。

今後、「川崎町公共下水道ストックマネジメント計画」に管渠の更新・長寿命化事業も組み込みながら施設全体の計画的な更新に努め、機能停止等の未然防止を図ると共に、限られた財源の中でライフサイクルコストを最小限とするよう努めます。

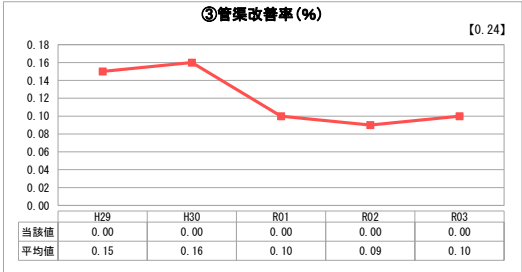
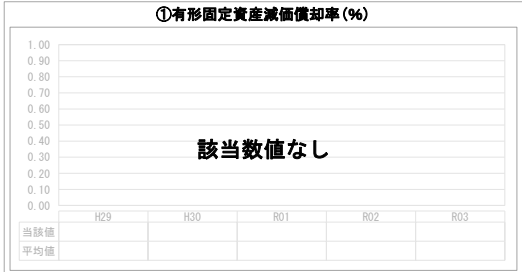
全体総括

当町の下水道事業は、供用開始から35年以上が経過しており、老朽化が進む設備の更新が直近の課題となっております。計画的に設備更新等を進めながら、包括的民間委託の範囲拡大や広域化・共同化を図り、効率的な運営改善に努めてまいります。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。